

# 地域でふれあい行事を行うためのポイントガイド

ふれあい行事・・・さまざまな人が、互いにわけへだてなく、ふれあうことができる行事。様々な人と、分け隔てなくふれあえる人を増やすための行事。

★だれもが同じ地域に暮らす仲間として、普段からの“きずな”作りが、住み良いまちづくりにつながります。

地域福祉の理解を進めるには、ふれあい行事の前後に、「学び合いの機会」を作ると良い。



## 企画

### ① 行事の目的をきめるとき

- ・ひとり1人が主役。誰もが参加でき、共に楽しめる。
- ・「ひとり1人がみんなのため、みんながひとり1人のために」気配りするきずなづくり

### ② 事業の基本概要を決めるとき

- ・地域の各種団体やボランティアが参加して企画する体制(実行委員会など)をつくろう。
- ・地域の特徴、強み、弱みを把握しよう。
- ・今ある地域行事に、「つながり・地域の宝」を意識して盛り込もう。
- ・年齢・性別・障害の有無に拘らず、多くの人に参加できるように配慮しよう。
- ・参加に向けた支援や、参加しにくい人への言葉掛けも大切。
- ・参加者にはひとり1人ちがう楽しみ方があることを理解し、柔軟に企画しよう。(行事をこなす事に気を取られると画一的になるので注意しよう。)
- ・曜日、時間帯や参加時間の長さなどに配慮し企画しよう。
- ・「食」を組み入れると会場の雰囲気や和む。ひとり1人が食をその人らしく楽しめる工夫しよう。
- ・関係者の役割分担を明確にしよう。

★自分だけが良ければよいのではないと思いませんか  
他人を思いやる時代になってきています。  
★ひとり1人が地球の掛替えのない存在

- ★参加を呼び掛ける団体・組織  
町(内)会・学校・商店・企業  
・福祉施設・障害者団体・民生委員  
・福祉推進員・老人会・婦人会  
・壮年団・ボランティア等
- ★参加したくてもできない人もいます  
はず！その人たちもかけがえのない地域の仲間だということを考えよう。
- ★余裕をもって企画しよう。

## 準備

### ③ 関係先や協力先に連絡・調整するとき

- ・高齢者や障害を持つ人などにも、個別に参加をよびかけよう。
- ・参加のための手助けを検討・調整する。参加できない人の対応を検討しよう。
- ・連絡・調整図を作成し、連絡先を明確にしておこう。

### ④ 準備の係分担を決定、準備をするとき

- ・ボランティアや各種団体、各々が協力できることを話し合おう。
- ・支援する側、受ける側が、相互に理解するために、本人・家族と共にじっくり話し合おう。
- ・役割分担表を作成し、準備を行おう。
- ・自然にふれあえる雰囲気の会場にしよう。
- ・参加支援に必要な物品リストを作成し、関係者が協力して調達しよう。

★楽しみ方もいろいろ、個々の違いを理解し、対応しよう。

★参加できない理由にも配慮が必要。  
色々な背景があることに細やかな配慮を！  
明快に参加できない理由を説明できない人もいます。

## 実行

### ⑤ 当日の進行、実施するとき

- ・タイムスケジュールを確認しよう。
- ・係、関係者が状況を確認し、連絡体制を確認しておこう。
- ・スタッフの目印が必要。会場全体の共通認識にしよう。
- ・楽しく自然な関わり方によるふれあいをしよう。(笑顔・あいさつ・声掛け)
- ・参加者全員で片付けよう。

★いざというときは、だれに連絡する？  
★雨・風大丈夫？

## 振り返り

### ⑥ 良かった点・悪かった点、評価するとき

- ・振り返りは、自由に発言できる雰囲気や、何でも話し合おう。
- ・良い点・改善が必要な点を反省し、記録を作成しよう。(参加者に配布)
- ・知り合った人との絆を、次につなげていくことを確認しよう。

★振り返りの視点  
「地域ぐるみで展開できたか？」  
「参加したい人が参加できたか？」  
「参加できなかった人にフォローできたか？」  
「気づきをどのように次につないでいくか？」など